

電力需要想定ならびに節電目標▲5%以上の妥当性について、多数のご質問が寄せられていますので、これについてご説明いたします。

## 1 電力需要想定について

### (1) 電力需要の性質

- 電力需要は、気象条件（気温・天候等）や社会情勢（景気・イベント等）などの影響を受け大きく変動します。特に、気温の影響は大きく、過去の実績をみると、夏は気温が1℃上がると大型火力機1基分に相当する約50万kWの需要が増加し、冬は気温が1℃下がると約20万kWの需要が増加します。

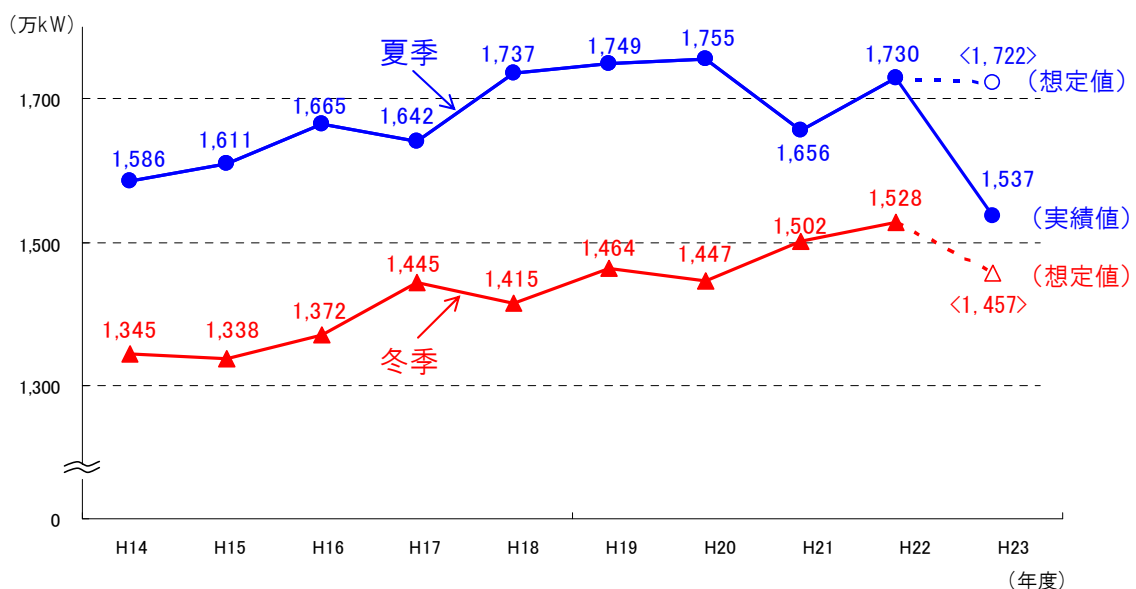
### (2) 今冬の電力需要想定値の考え方

- 今冬の電力需要の想定値（1,457万kW：発電端の最大3日平均電力）については、震災前の平成23年3月時点において、これまでの需要実績に対して気温などの変動要因の影響等の分析を行い、さらに至近の景気動向などの社会情勢等を勘案しながら想定したものです。  
この場合、気温は「平年並み」で想定しているため、厳冬であった昨年・一昨年の実績に比べると、低い水準となっています。
- このように、電力需要は、様々な要因によって影響を受けることから、実際の電力需給運用においては、日々の需要動向や週間・翌日の気象予報などを考慮し、一週間前～前日と徐々に精度を上げていながら想定を行っております。  
これらの状況については、「でんき予報」により皆さまにお知らせしております。

### (参考) 今夏の電力需要実績について

- 今夏の電力需要実績は、想定値を大きく下回りましたが、これは、高気温が一定期間継続しなかった影響に加え、ご家庭から企業に至るすべてのお客さまが「節電（省電）」に取り組んでいただいた結果であり、過去の実績からみても、必ずしも想定値が過大であったとは考えておりません。

【最大電力需要の推移（最大3日平均電力、発電端）】

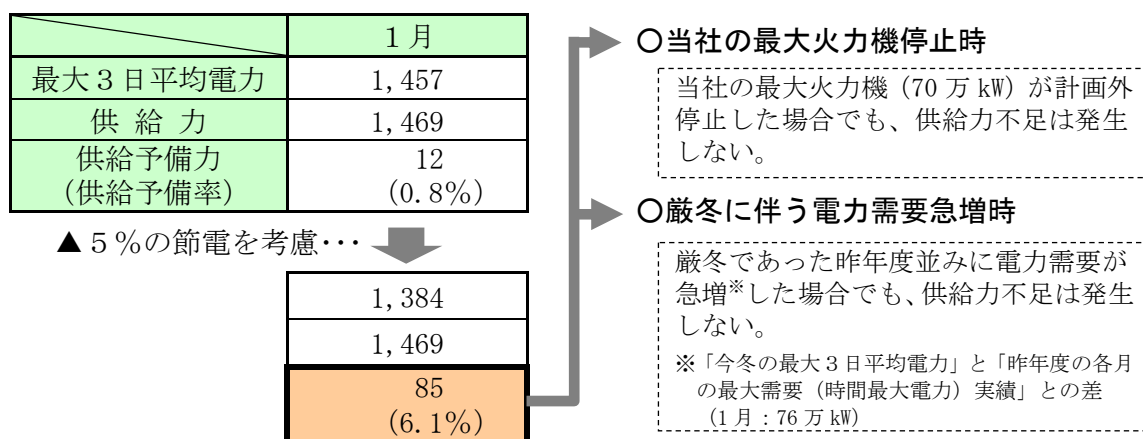


## 2 節電目標▲5%以上の考え方について

### [なぜ▲5%以上の節電が必要なのか？]

- 電力需要は、気温などの気象条件等によって大きく変動します。冬場においては、寒波の影響による気温の低下等によって、電力需要が急増するリスクがあります。一方で、電力供給面においても、発電所のトラブルや少雨による水力発電量の減少などにより、供給力が低下するリスクがあります。
- 電力を安定に供給するためには、これらの需給両面のリスクを考慮し、想定される最大電力需要に対し、一定の余力（予備力）を確保する必要があります。  
具体的には、当社の最大火力機〔容量 70 万 kW（最大電力需要の 5%程度）〕のトラブルを想定\*して、最大電力需要の 5%程度の予備力が必要です。  
※今夏も、当社を含む電力各社で火力発電所のトラブルによる停止が発生
- これに対し、今冬においては、原子力発電所が全基停止する 12 月 26 日以降は非常に厳しい需給状況となる見通しであり、特に 1 月においては、想定される最大電力需要に対し、予備力が 1%未満となる見通しです。
- したがって、電力の安定供給のためには、予備力不足分に相当する▲5%程度以上の節電を、やむを得ずお願いするに至った次第です。  
これにより、厳冬であった昨年度並みに電力需要が急増した場合でも、電力の供給力不足は発生しない見通しです。

### 【最大電力バランス（発電端）】[単位：万 kW]



### [何を基準に▲5%以上の節電が必要か？]

- 以上で述べましたとおり、節電目標の「▲5%以上」は、あくまで気温が「平年並み」の前提において、節電を特に意識していなかった昨年度までの冬季の電気の使われ方をもとに想定した最大電力需要からの節電をお願いしているものです。  
したがって、現在、すでに節電に取り組んでいただいているお客さまについては、その分を含めて、▲5%以上の節電へのご協力をお願いします。
- ちなみに、至近（10～11 月度）の電力需要実績を見ますと、昨年を▲2%程度下回っている状況にあり、すでに今夏から取り組んでいただいている節電の効果が、現在も継続して現れていると考えています。